

# 平成27年度後期芦安中学校学校関係者評価書

平成28年1月22日  
芦安地区学校関係者評価委員会

委員長 林 雄



## 1 経過

第2回芦安地区学校関係者評価委員会

日時：平成28年1月14日(木) 19:00～20:30

場所：芦安小学校 多目的ホール

## 2 参加者 評価委員4名 小学校3名 中学校3名

No.	氏名	役職名	備考	
1	林 雄二	芦安小中学校PTA会長	委員長	
2	森本 章雄	学校評議委員 芦安地区学校応援団代表		
3	清水 准一	学校評議委員 NPO法人芦安ファンクラブ事務局長		
4	深澤 米男	南アルプス市議会議員		
5	内藤 和彦	芦安小学校	校長	
6	深澤 茂弥		教頭	事務局
7	興石 みさを		教務主任	
8	中込 幸二	芦安中学校	校長	
9	笠井 知幸		教頭	事務局
10	早川 武浩		教務主任	

## 3 学校から提案された内容

[後期中学校自己評価の分析と改善方策]

- (1) 後期(12月)職員アンケート結果
- (2) 後期(12月)生徒アンケート結果
- (3) 後期(12月)保護者アンケート結果
- (4) 芦安中学校教後期自己評価書

## 4 協議された主な内容

- (1) 学校の様子全般についての意見・質問
- (2) 後期アンケート結果についての意見・質問
- (3) 自己評価の結果を踏まえた今後の芦安地区の教育のあり方について 意見・要望

## 5 評価委員会で出された主な意見・質疑

### (1) 学校の様子について

- ① 「部活動」「太鼓」「生徒会活動」に対して「意欲的でなかった」という回答の生徒がいるが、どういう実態なのか。部活動選択は二者択一なのか、兼部ができるのか。  
→ 学校にあまり来ていない生徒の回答と推定される。このような状態なので、部活動にも参加しておらず、「意欲的でなかった」という回答となったと言える。本校の部活動は長い間バドミントン部のみであったが、昨年度末「運動が苦手な生徒はどうしても意欲的な取り組みができない。逃げてしまう。」という実態報告があり、対応策を検討し、職員会議及び生徒会などとも話し合っており、本年度は文化部（音楽部）を設けることになった。4月時点で5名の女子が入部し、意欲的に取り組み、その成果を白峰祭で発表した。なお、バドミントン部員も本来の活動に支障がない範囲で希望によって音楽部の活動に参加することは、本校が活発に合唱に取り組む観点からも認めてよいという確認がされている。
- ② 別室登校の生徒の理由や実際の様子はどうなのか。  
→ 人間関係のトラブルなどが原因で教室に行けない生徒であり、主に保健室で学習している。この生徒は2学期末、転居に伴って転出した。本人や保護者との話し合いにより、前日のうちにあるいは当日登校すると自分なりの一日のスケジュール（時間割）を作り、可能な限りその教科担任が指導・付き添う対応をした。全教科を学習することや集中しての取り組みはなかなかできなかったが、本人なりには頑張っていた。給食時も職員が必ず同席し、できるだけ一人だけにするのがないように対応した。このような対応の実態を保護者がどれだけ把握していたかは不明。
- ③ 他地区からの生徒のコミュニティーバスの使用状況はどうか。  
→ 3名が主に登校時に使用している。下校時間が部活動の有無や、曜日や季節（下校時間は日没に合わせてスライドする）で異なるので、下校時はほあまり使用していない。
- ④ 芦安は自然環境に恵まれた地域である。特色として登山に取り組んでいる。これからも積極的に推進してほしい。

### (2) 小・中学校共通として出された意見・質疑

- ① 子どもたちは登下校時も地区住民に対して元気よくあいさつをしている。気持ちの良いことであり、関心させられる。気持ちの良いあいさつが地域の連携の一步にもなる。これからも継続してほしい。
- ② 芦安の子どもを地域みんなで育てるという考えで、引き続きどの子にも声掛けをしてほしい。
- ③ 地域の行事に今まで通り参加してほしい。「芦安新緑・やまぶき祭」。来年度は5月8日（日）開催でほぼ決定。例年通り小中学生の参加・協力をお願いして、盛り上げていきたい。
- ④ トンネル工事などでダンプカーなどの往来が多くなる。注意してほしい。
- ⑤ 歩道橋下、橋の補強工事を進めている。迷惑をかけるが協力してほしい。

### (3) 今後の芦安地区の教育のあり方について

- ① Be Open プロジェクトの活動を進めている。英会話推進校としてのより発展的な取り組みである。2月に海外（オーストラリア マッキロップ校）へ向けて発信する。児童生徒にとって達成感が持てる活動になるように推進していきたい。

- ② P T A活動の持ち方について、マニュアル化などを行い、役割分担をしっかりと形に残していく必要がある。
- ③ 保護者の多くが芦安地区外になりつつある。活動内容を見直す必要も出てきている。

## 6 分析・評価

芦安地区学校関係者評価委員会において、「学校経営方針」「学校グランドデザイン」に沿って行われた自己評価（職員・生徒・保護者のアンケート結果）を、今年度前期及び昨年度同期と比較すると明らかに「肯定的な評価」が高くなり、本校の教育活動の成果が向上していることがはっきりした。数値的には達成度や充実度に若干のバラつきはあるが、全体的に調和のとれた教育活動が進められていると言える。

いろいろな生徒がいる中で十分な対応は難しいかもしれないが、小学校とも連携し、保護者や地域の願いも取り込みながら、可能な限り取り組んでもらいたい。評価が高かった項目は今後も伸ばしていき、さらなる芦中教育につとめてほしい。